

袋井市は幼小中一貫教育を推進しています。

幼小中つながる通信 vol.73

発行：令和2年6月19日 袋井市教育委員会

ICTを活用した新しい学校生活

市内の小中学校でも、新しい生活様式に準じた学校生活が始まりました。新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、新しい方法や発想で、授業や学校行事など様々な取組が行われています。

本市の小中学校には、学習用のタブレット端末が児童生徒6人に1台の割合で整備されています。コロナ禍においては、これらのICT機器が、学習以外の場面でも有効に活用されています。



学級で生徒会長の話を聞く



タブレット端末のカメラを見つめ、全校生徒に向けて話をする生徒会長の鈴木さん

声と表情を届けたい

ICTの活用

浅羽中学校では、オンライン会議アプリを活用した生徒総会が開催されました。

本来、生徒総会は全校生徒が一堂に集まり、学校の行事や取組について協議・議論を行う会です。昨今の状況から、全体が集まることは避けるべき。だけど、何とかして声と表情を届けることはできないか……。

そこで、各校に配置されているタブレット端末とプロジェクターを活用し、声と表情を学級に届ける新しい形の生徒総会が実現しました。



声と表情を学級に届ける

広がるICTの可能性

袋井あやぐも学園では鳴門教育大学教職大学院の久我直人教授と市内4校を結び、講演会を開催。学園内の幼小中の教員約200名が、各会場で参加しました。

例年は、1校に集まって開催してきた講演会を、今年はICTを使ってオンラインで開催。講演の目的を十分に果たすことができました。

今後のICTの活用場面の広がり大きな可能性を感じました。

